

## 立志の主張：「本当の思いやり」

津幡中学校2年 板坂優香

みなさんはどのようなことが「思いやり」だと思いますか。私が思う「思いやり」について話していこうと思います。小さい頃、私は、相手がどう思っているのかよくわかりませんでした。ですが、日々過ごしていく上で人に寄り添うことの大切さを知っていました。人に寄り添うことで、相手の気持ちを理解し、そのうえで最善な行動をとることができる、相手も自分も心地よく過ごせる、そのころはそれが「思いやり」だと思っていました。しかし、先日の職場体験で、それは本当の思いやりではないと気づきました。体験先の方が「お客様が何かを探していたり困っていたりしたら、自分が呼ばれる前に気づく。そして行動すること。それが大切にしている思いやりです。」とおっしゃっていました。私は、それを聞いて感銘を受けるとともに、今まで思いやりだと思っていたものが違うということへの驚きも感じました。そして、それが「本当の思いやり」なんだと知りました。

道徳の授業でも、そのような「本当の思いやり」について考える時間がありました。部活動で帰りが遅く、暗い商店街を歩く中学生。その商店街の果物屋さんは、中学生が寂しそうだ、元気づけたいと思い店に明かりをともします。店の前に立っているのではなく、店に明かりをともすという行動をとりました。ここから私は、果物屋のおばあさんは店の前に立つよりも、店に明かりをともすほうが店の前を通るときに心が温かくなると考えたのではないかと思いました。周りの状況をよく見て行動する、そして、相手の気持ちも考えて行動する。この二つをしっかりと意識して行動していきたいと思います。

そして、私は今部長として吹奏楽部で活動しています。この活動の中でも「本当の思いやり」について感じたことがあります。今まで、「もし困ったことがあつたら何でも言ってね」というように相手からの相談を待っていました。しかし、それだけではいけないのだと職場体験や日々活動していくうちに気づきました。相手からの相談を待つのではなく、自分から気づいて動くことが必要なのだと。その「動く」という行動をするために、今は、日頃から部員とコミュニケーションをとったり、部員全員と協力したりと、自分から積極的な行動をとるように心がけています。

私は、日々いろいろな活動をして、たくさんの経験を積んできました。そして、今まで感じていた「思いやり」とは違う、「本当の思いやり」に気づくことができました。これからは、そんな「本当の思いやり」の心を持った行動をするために、視野を広げること、そして周囲を見つめることを意識し、たくさんの人々に寄り添って過ごしていくようにしたいと思います。